

柔道部年譜

(創部～50周年)

- 1877年(明治10年)
福澤先生指示のもと、幼稚舎の長、和田義郎氏の指導にて
柔術訓練開始
道場36畳
- 1881年(明治14年)
関口流関口柔心氏師範に
- 1889年(明治22年)
講道館の四天王と称された山下義昭韶氏を師範に招聘
- 1891年(明治24年)
旧演説館裏に道場新設(約40畳。幼稚舎道場とは別)
- 1893年(明治26年)
警視庁及び講道館より選手を招待し、柔道大会開催
- 1896年(明治29年)
幼稚舎生塾内試合記録存在
- 1898年(明治31年)
塾内試合記録第7回として存在
- 1900年(明治33年)
第一高等学校柔道大会に本塾より選手派遣
- 1902年(明治35年)
第1回京都遠征試合(対第三高等学校)
第1回早稲田大学対抗戦
- 1904年(明治37年)
内田良平氏師範就任
綱町道場新設(119畳)
- 1906年(明治39年)
飯塚国三郎氏師範就任
- 1912年(大正元年)
対4校戦開始(東京農業大学、日蓮宗大学、水産講習所、
高等工業学校の4校連合軍と本塾との定期戦)
- 1916年(大正5年)
中野正三氏師範助手として就任

(50周年～75周年)

- 1929年(昭和4年)
昭和天皇即位祝賀全日本武道大会に塾OB、阿部英児、阿
部大六、浅見浅一、山川渉の4先輩出場
- 1931年(昭和6年)
北陸地方武者修行(松本—永野—長岡—新潟—会津若松)
- 1933年(昭和8年)
第21回(昭和7年)を以て、対4校連合試合中止の決議
本塾の戦績：18勝2敗1引分
- 1936年(昭和11年)
2・26事件、満州事変、日支事変が起こるが学生柔道に
は影響少
関西・北陸遠征
復活第3回早慶戦

- 1938年(昭和13年)
清水正一先生を師範に迎える
第1回北米合衆国遠征
東北・北海道遠征
- 1939年(昭和14年)
関西・九州遠征
- 1940年(昭和15年)
昭和11年の復活第3回で中断していた早高対予科高等部戦が全早慶戦として実現(第1回早慶対抗柔道戦)
日満交歓武道大会に、本塾から赤塚、羽鳥、飛田、桑原の4名出場
関西・九州遠征
紀元2600年奉祝第12回神宮柔道大会高等の部にて1位から3位まで独占
- 1941年(昭和16年)
大東亜戦争勃発
- 1943年(昭和18年)
医学部工学部を除き、徴兵期に当たる全員が召集される(学徒動員)
- 1945年(昭和20年)
敗戦に続き、GHQ及び文部省より学生柔道禁止の指令が出る
(慶應義塾体育会柔道部解散)
- 1946年(昭和21年)
元柔道部師範飯塚国三郎先生所有の「至剛館」を学生愛好者のために毎日解放して頂く
校外団体クラブとしての柔道クラブを結成
- 1948年(昭和23年)
三田柔友会(岩崎清一郎会長)が至剛館を柔道クラブのために購入
- 1950年(昭和25年)
学生柔道復活となり、柔道部は正式に体育会に復帰した
- 1951年(昭和26年)
清水正一師範の再就任
日吉、綱町の道場開き

(75周年～100周年)

- 1952年(昭和27年)
講道館創立70周年記念全日本年齢別柔道選手権大会で熊切昭男3段が優勝
第1回東京都中学校柔道大会で、普通部が優勝
- 1953年(昭和28年)
10年ぶりで早慶戦開催(第5回)、読売新聞後援
- 1954年(昭和29年)
早慶対抗柔道戦(通算第6回目、戦後の復活第2戦)で史上初の勝利
(部長:橋本孝、師範:清水正一・朝飛速夫、監督:羽鳥輝久、主将:宮崎剛、幹事:熊切昭男(早慶戦大将)・田坂昭)
慶應高校・全国大会で準優勝
- 1955年(昭和30年)
北海道遠征(部長・師範・監督:前年と同じ、主将:堀越忠義、幹事:高松静男・吉川文雄)

早慶戦引き分け

1956年(昭和31年)

早慶戦で早稲田に快勝する

(主将：長門英夫、幹事：飯塚国基、廣瀬久也、山際正明)

1957年(昭和32年)

全日本大会3位、早慶戦は4人残して勝利

(幹事：鈴木一男・伊藤弘人・小倉英夫、主将：山際正明、

主務：小野喜也、副務：野村孝司)

1958年(昭和33年)

慶應義塾創立100周年

柔道部：有段者100余名、部員総数300名

慶應高校の黄金時代：部員総数70名

(主将：小倉英夫、主務：稲田詢、副主務：川端孝充、幹

事：竹内右宣・福田靖与・岡本信義、部内幹事：渡辺明

治・豊永勝)

1959年(昭和34年)

台湾遠征、北海道遠征、東北遠征

(主将：渡辺明治、主務：堀内義太郎、幹事：豊永勝・阿

部大助・檜山治・橋本光蔵・大矢忠史・高田幸人)

早慶戦1人残して勝ち(前年の雪辱成る)

日吉新道場開き(日吉体育館落成)

1960年(昭和35年)

(主将：高田幸人、主務：山口慎吉、副務：田村泰男、幹

事：新原武文・南健雄・佐藤紘・廣瀬嘉嗣・清水英範・林

政宏・福山浩洋)

北海道遠征

早慶戦3人残して早稲田が勝ち～以来18年間勝てず。

1961年(昭和36年)

(主将：福山浩洋、主務：加藤進、副主務：飯野紀夫・渡

辺芳和、幹事：榊原孝至・新宮松比呂・木村寛・永岡秀

昭・音川和三・植村剛太郎)

1962年(昭和37年)

柔道部員100名

(部長・監督：前年と同じ、師範：清水正一・朝飛速夫・

清水直臣、主将：植村剛太郎、主務：渡辺紀久男、幹事：

植村健次郎・阿部智応・瓜生長志・小林浩一・友田義輔、

副主務：田北坦・川上隆三)

第11回東京学生柔道優勝大会で準決勝まで進む

1963年(昭和38年)

戦後初のアメリカ遠征(団長：安東喜四夫、総勢29名)

(部長・師範：前年と同じ、監督：山崎高・大館三郎、主

将：友田義輔、主務：山口和彦、副主将：永田武二郎、幹

事：中野根二郎・佐藤靖・塚田正昭・大石陸平・林政宏、

副主務：高橋重厚)

1964年(昭和39年)

東京オリンピック

(部長・師範・監督：前年と同じ、部長：橋本孝、師範：

清水正一・朝飛速夫・清水直臣、監督：山崎高・大館三郎、

主将：塚田正昭、主務：稲田励、幹事：辰野幸正・清水正

敬・野口和志・高橋彦二郎・峰岸保夫・片桐正路・安藤洋

志、副主務：片桐滋・門野倬也・滝沢緑郎)

日吉の合宿所竣工

1965年(昭和40年)

部員90名。合宿所(舎監：南先輩)には常時20名が寝

泊まり

(部長・師範：前年と同じ、部長：気賀健三、師範：清水正一・朝飛速夫・清水直臣・伊藤俊一、監督：大館三郎、主将：安藤洋志、主務：滝沢緑郎、副将：野田侃生、幹事：萩巢賢二・若菜武夫・森田総典・庄司利昭・橋田絃一・堀信孝、副務：小高喜久夫・竹本真次)

1966年(昭和41年)

(部長・師範：前年と同じ、監督：渡辺明治、主将：堀信孝、主務：竹本真次、副将：西村和悦、幹事：沢地憲一・朝倉秀樹・手島秀士郎・望月克己・大竹高・飯田祥次、副務：牛場春夫・大沢英昭)

1967年(昭和42年)

台湾遠征(団長：守谷一郎先輩)

(部長・監督：前年と同じ、師範：清水正一・朝飛速夫・清水直臣、主将：大竹高、副将：関郁夫、主務：大沢英昭、幹事：金杉浩・飯田祥次・田中明男・稲石謙一・河上龍雄・芳賀孝穂)

1968年(昭和43年)

6年ぶりに全日本学生大会に出場

(部長・師範・監督：前年と同じ、主将：河上龍雄、副将：芳賀孝穂、主務：内海勝彦、幹事：近藤正士・渡辺弘二・平川道隆・行本公二・宮本圭一・稲波唯弘)

中野師範80才記念祝賀会(銀座交詢社)

北陸遠征

1969年(昭和44年)

朝飛師範逝去

(部長：前年と同じ、師範：清水正一・佐藤毅・清水直臣、監督：阿部大助、主将：稲波唯弘、副将：宮本圭一、主務：稲田新、幹事：岡田勲・田村信雄・松葉直彦・瀬戸口昌宏・古屋敏郎)

東北・北海道遠征

1970年(昭和45年)

(部長・師範：前年と同じ、監督：友田義輔、主将：古屋敏郎、副将：塚本広道(龍野廣道)、主務：熊谷喜隆、幹事：進藤大二・検見崎栄・鈴木重利・羽鳥順・桜田裕)

四国地方遠征

1971年(昭和46年)

名古屋・関西遠征

(主将：桜田裕、副将：岡田雅博、主務：西島良信、幹事：藤原芳隆・稲留秀明・山田公平・小林正典)

1972年(昭和47年)

アメリカ遠征

(主将：山田公平、主務：近藤幸男、副将：小林正典、幹事：山本恵・大城朝幸・浜田喜重、副務：金谷重信)

1973年(昭和48年)

部員総数25名(内4年生3名)

(主将：浜田喜重、主務：金谷重信、副将：沢原俊英、幹事：若宮茂二・前田雄式)

1974年(昭和49年)

台湾遠征

6年ぶりに全日本学生大会に出場、その後7年間一部校を維持

(師範・監督：前年と同じ、部長：石川忠雄、主将：若宮茂二、主務：高桑君昌、副将：前田雄式、幹事：足立和

美・高田信哉・伊藤哲也・野見山洋朗・浅井幸広、副務：
對馬好一)

1975年(昭和50年)

(部長：前年と同じ、師範：清水正一・清水直臣・橋本昇・青木豊次、総監督：山際正明、監督：友田義輔、主将：伊藤哲也、主務：對馬好一、副将：浅井幸広、幹事：野見山洋朗・渡辺賀二・松永幹夫・植村一郎・慶田金信、副務：田中辰己)

1976年(昭和51年)

(部長：前年と同じ、総監督：山際正明部長、監督：前年と同じ、総監督：山際正明、師範：清水正一・清水直臣・橋本昇・青木豊次・安藤勝英、主将：黒部篤志、主務：田中辰己、副将：山本秀夫、幹事：木村康治・加藤義康・金子正志・岩崎保夫・田中茂樹、副務：伊藤定史)

(100周年～125周年)

1978年(昭和53年) 1月21日

柔道部創立百周年記念式典及び祝賀会を交詢社で挙行

1978年(昭和53年) 10月10日

第30回早慶対抗柔道戦で、慶應が19年振りの優勝
(20選手の勝ち抜き戦で5人残し)

1983年(昭和58年) 3月10日～19日

柔道部初の東南アジア遠征 シンガポール・タイ・台湾

1983年(昭和58年) 10月1日

柔道部長 法学部 阪埜光男教授 法学部長に就任

1984年(昭和59年) 1月15日

杉浦潤 先輩 寒稽古連続30年皆勤

1985年(昭和60年) 1月13日

清水 正一 名誉師範に国際柔道連盟(IJF)より十段位授与

1985年(昭和60年) 8月

四国遠征

1985年(昭和60年) 10月20日

警視庁武道館で行われた第28回東京学生柔道2部優勝大会にて慶應が4年ぶりの優勝

1986年(昭和61年) 8月

中華自強柔道隊来日 塾と交流試合、合宿

1986年11月17日～24日

台湾遠征 台湾選抜などと交流試合

1988年4月2日

黒田富夫先生慰労の会を帝国ホテルで開催

1988年(昭和63年) 10月27日

清水正一名誉師範の喜寿を祝う会開催(於ホテル高輪)

1989年(平成元年) 1月15日

成毛秀臣先輩寒稽古精勤50年

1989年(平成元年) 7月25日

清水正一名誉師範逝去

1991年(平成3年) 1月15日

旧綱町道場最後の寒稽古

1991年(平成3年) 6月17日

笠原慶太郎先輩逝去

- 1991年(平成3年)7月7日
「明治から平成までありがとう三田綱町道場」の集い開催
- 1992年(平成4年)3月30日
石川忠雄塾長が学柔連会長に就任
- 1992年(平成4年)6月3日
清水直臣師範 退任。朝飛大先生が師範就任。
- 1992年(平成4年)12月
綱町武道館完成
- 1993年(平成5年)1月
綱町武道館の新道場にて初の寒稽古
- 1993年(平成5年)8月
アメリカ・サンノゼ遠征
- 1995年(平成7年)7月15日
松本市で清水正一先生の記念碑除幕式
- 1995年(平成7年)7月18日
石川忠雄先生の春の叙勲(勲一等旭日大綬賞)に伴う祝賀会を
柔友会で主催
- 1997年(平成9年)1月28日
羽鳥輝久先輩逝去
- 1997年(平成9年)9月
第5回アメリカ遠征
- 1997年(平成9年)12月14日
第1回綱町柔道祭を開催(以降、毎年恒例化)
- 1998年(平成10年)8月
第6回ベトナム国際柔道大会に主将助川が参加、3位に入賞
- 1999年(平成11年)3月
第1回ネパール国際学生親善柔道大会に6名参加、優勝等上位入賞
ネパール王女に橋本前首相(当時)より黒帯伝達
- 1999年(平成11年)5月29日
第1回慶應杯開催(参加校:8高校)
- 2000年(平成12年)1月16日
成毛秀臣先輩寒稽古華甲皆勤賞(61年間皆勤)
- 2000年(平成12年)4月1日
第2回慶應杯開催(参加校:14高校、13中学校)
- 2001年(平成13年)2月
アメリカ・ニューヨーク遠征
- 2001年(平成13年)3月31日
第3回慶應杯開催(参加校:17高校、13中学校、女子部5校)